



# 和らぎ苑

第49号 秋号発行日：平成27年10月1日

## ～納涼祭の報告 By行事委員会～

8月22日(土)、平成27年度夏祭りが開催されました。本年度も午前中から特別な1日を感じていただきたく、様々な催しを行いました。

午前中は、普段のラジオ体操？と思いきや、突然不気味な音楽に変わって、怖いお化けが登場！魔除けのかごを使って退治しましょう！という事で、少し趣向をこらした玉入れゲームを楽しんでいただきました。皆さん怖がりながらも、ご家族と盛り上がりお化け退治できましたよ。でもお化けは途中のスライダーダンスの方がこたえたかな？

ランチは恒例のお好み焼きが登場。お祭りの雰囲気存分に味わえる豪華なメニューに舌鼓を打っておられました。

お昼からは1階に降りて、毎年ご来苑いただいている「浮世会」様による盆踊りでスタート！生歌と生演奏による迫力ある音響に、会場は笑顔がいっぱい。今年も素敵なパフォーマンスありがとうございます！

夏の風物詩を体験した後は、楽しくてみんなで出来る縁日ゲームをご用意しました。まずは水鉄砲射的。涼しげな雰囲気も楽しんでいただけたでしょうか？さらにその奥にはドライアイスで演出した氷の世界でさらなる「涼」を体験。この頃まで暑かった夏も少しは和らぐことができたらと考えたコーナーでした。

食堂にもゲームを二つご用意。ボウリングに輪投げ。定番ながらも盛り上がる！少し難しい方もいらっしやいましたか？最後はお面をかぶって記念撮影！あっと言う間に楽しい一日は過ぎていきました。今回もたくさんの笑顔に出会うことができました。この笑顔を次の冬祭りでもお届けできたら。その思いで、次も行事委員一同頑張ります！



お化けの登場



盆踊り



発行者：四天王寺和らぎ苑 広報誌編集委員会

発行所：四天王寺和らぎ苑

Homepage (URL)

〒584-0082 富田林市向陽台1-3-21

<http://www.shitennoji-fukushi.jp/yawaragien>

TEL0721-29-0836(代) FAX 0721-29-3916

E-mail yawaragien@shitennoji-fukushi.jp

## ～2階フロアの紹介～



8月から、2階の医療費収入の「出来高支払制」への変更申請が認められました。

これにより2階・3階の入院棟の医療費の「出来高支払制」が完成しました。

和らぎ苑は、高齢化に伴う二次障害の重症化や新規入所者の重症化の現実に対応する為に、障害の個別性に対応した質の高いサービスの提供が求められています。それには、医療的ケアのニーズに対応できる医療・看護・生活支援サービスの提供が必要です。また、南河内地域の在宅の重度障害児者の皆さんからは、重要な社会資源としての医療的短期入所事業の拡大や医療福祉センターとしての機能強化が期待されています。具体的な変化は、①医療的ケア・看護の充実の為に看護職員の増員と夜勤体制の強化。②電子カルテの導入や医療機器・介護機器の充実。③リハビリ部門の充実。④外来部門や薬剤部門との協力体制の強化。が進行しています。

2階フロア看護師長  
佐久本 洋二

## ～3階フロアの紹介～



心地よい風を身に受けて、清々しい気持ちで時を過ごせる季節となりました。保護者の方々に御協力・御支援頂いていることに心より感謝致します。

昨年より看護学生の実習を受け入れ、逆に多くの事を教えて貰う機会を得ました。反省し考える事も多々あります。

学生のカンファレンスでは、『暗い雰囲気だろうと思って来たけれど、利用者さんの笑顔がたくさんあって、スタッフさんもととても明るくてびっくりした。』『言葉はなくても、顔の表情や指のかすかな動き・モニターの数値の変化で意思疎通が出来ていることに驚いた。』『障害を持ちながらも一生懸命生きている姿に、自分ももっと頑張ろうと勇気を貰えた。』などの言葉を貰いました。私達スタッフも、そのような学生の言葉に励まされ、利用者さん一人一人が“産まれてきてよかった。生きててよかった。”と思って貰えるような関わりを続けていきたいと思っています。

3階フロア看護師長  
松下 すみ子

## ～各フロア 夏の活動報告～

### ～ポプラ夏の活動～

今年の夏は湿っぽい梅雨と秋雨の間に猛暑日が連続しました。生活介護ポプラでは、そんな夏を楽しく乗り切ろうといろいろな活動を楽しみました。水鉄砲による水かけ合戦では、5, 6名のご利用者と同数の職員が1組ずつ水鉄砲を持って打ち合いました。ベランダでゴムプールの中に座って、足だけ水に浸けて涼む活動も行いました。大きなパラソルの下、大きな噴霧器でミストを浴びながら、順番に足を浸けました。夏の音楽もかけて夏気分を存分に味わいました。とても盛り上がりましたが、やっぱり暑かったです。



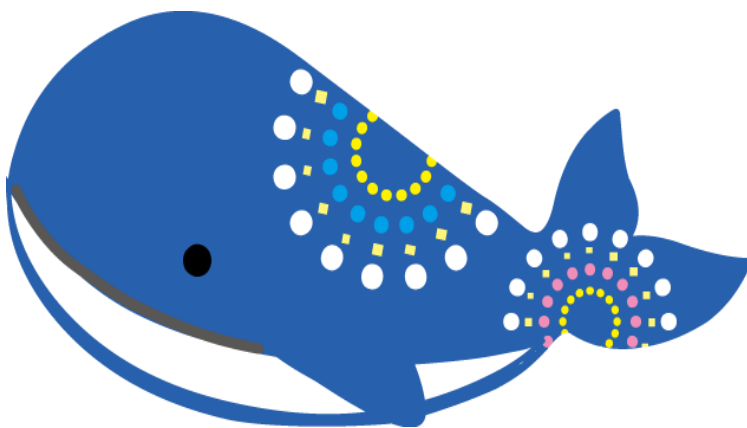
### ～2階フロア夏の活動～

2階フロアでは、平日のちょっとした時間を使って、納涼祭に向けての提灯作りをしました。毎日ご利用者を変え、少人数のグループで色紙を切ったり、糊付けや色を塗ったり、個性溢れる提灯ができたと思います。中にはカラーセロファンを貼り付け、明かりを入れると正に提灯！？と言わんばかりの出来栄も！完成した提灯は天井に吊るしました。始めは少なかった提灯ですが、数が増えるにつれ、お祭りモードが高まっていき、納涼祭を楽しみに待たれているご利用者の皆様でした。

### ～3階フロア夏の活動～

3階フロアの夏のレクリエーションは、入浴剤を使用した『入浴剤デー』を1週間実施しました。

夏らしさを味わって頂く為にラムネの香りのする入浴剤を使用し、入浴剤だけでなく、雰囲気でも夏を感じていただくために、夏をテーマにした音楽をかけて雰囲気作りも行いました。音楽をかけ、入浴剤を使用するだけでも普段とは違った浴室になり、心も体もリフレッシュして頂け、ご利用者の方みなさんに楽しんで頂けたのではないかと思います。





## 短期入所事業

### ～ショートステイサービスの紹介～

大阪府の「重症心身障がい児者地域ケアシステム検討報告書」によると、大阪府における重症心身障がい児者数は、平成24年7月1日現在で、7916人となっています。そのうち、約9割の方々が在宅で生活されていると報告されました。また、平成22年度の「地域で安心して暮らし続けるうえで必要と感じているサービス等」の実態調査では、「短期入所事業所の増」が60.2%、「医療機関による短期入所の実施」45.1%と、地域生活のなかで、短期入所事業所の必要性を強く求める数値となっています。昨年、大阪府からの委託で「重症心身障害児者の地域モデル事業」を展開し、地域のご利用者に対して、和らぎ苑の施設見学を含む体験会を実施しました。その結果、平成23年度短期入所年間延利用者数と比較すると、平成26年度は、約3倍となり、新規ご利用者との関わりが、地域のご利用者を理解し、より良い支援を提供していくという職員の意欲に繋がり、地域に必要とされる施設になっている手応えも感じております。

地域のご利用者のライフステージに応じた地域生活を支えるために、和らぎ苑の役割として、まだ手が届いてないところも、沢山あると思いますが、和らぎ苑全職員で、地域のご利用者おひとりおひとりに必要とされる支援ができる体制づくりの構築に日々励んでいます。

和らぎ苑看護部長 若井敦子

### ～先人の知恵に学び非常時に備えを！！～By栄養士室

我が家には毎年、年明けに茨城より干し芋が届く。食べる習慣がなかったので干し芋と聞いてもさほどの感激もなかったが、届いた干し芋を食べて驚いた。どこか懐かしい香りと蒸した後干すことで一層強くなった甘味！！こんなおいしい物を知らなかったなんて、人生損をした気分である。蒸してから干す現在の製法が確立されたのは江戸時代に静岡県御前崎市にある地域であると言われている。その後保存食として全国に広まり、日露戦争で野戦食として活用されたそうだ。茨城県へは明治の後半に伝わり、那珂湊（現在のひたちなか市）で生産が始められ農業従事者や漁業関係者の副業として定着した。さつま芋の生育に適した水はけの良い土壤に恵まれ、干し芋作りは発展し、現在では全国シェア90%以上を誇っている。\*（茨城・干し芋探訪）等調べ



近年災害に備え、非常食の蓄えをと呼びかけられている。保存料等は一切使われていないが、室温保存も可能でしかも、火も水も使わずそのまま食べられる干し芋は非常時に最適な食品の一つである。

#### 編集後記

夏の暑さも過ぎ去り、急に秋めいてきました。

季節の変わり目は体調を崩しがちです。体調管理には十分気をつけましょう。

広報委員会